

- ◆ 中央アジアは、中・露・イラン・アフガニスタン等に囲まれ、東西・南北の接点として地政学的な要衝。従来から、中央アジアはエネルギー・鉱物資源の確保先として各国が重要視。近年は地理的な結節点としての中央アジア域内外との連結性強化の重要性が高まっている。通信インフラ、スマートシティ等、AIを含む関連通信機器の需要も伸びており、各国が進出。カザフスタンが鉱物探査を含めAIの積極的な活用を方針として打ち出す等、地域におけるAIを使った資源開発（鉱物等）・サプライチェーン構築への関心が高まっている。
- ◆ こうした状況において、日本と中央アジア諸国が、AI分野における協力を深め、「安全、安心で信頼できるAIエコシステム」を構築することは、極めて有意義。
- ◆ AI関連分野において新たな市場を創出し、日本企業の海外展開を後押しし、高い人口増加率・経済成長率を誇る中央アジア諸国の成長ポテンシャルを日本経済に取り込むことにも貢献。中央アジアとの連結性の強化は、FOIPの実現からも重要。
- ◆ ついては、AIへの懸念・リスクに対処しつつ、各国のニーズに合わせて、安全、安心で信頼できるAIを活用し、国際及び中央アジア各国における経済・社会・開発上の課題の解決に貢献しつつ、日本企業の海外市場展開を実現させるために、以下の取組を三本柱として「日本中央アジア・AI協力パートナーシップ」を立ち上げ、連携・協力の強化及び双方への裨益を実現。

柱1 AIソリューションの共創

- (1) 社会課題解決共創プラットフォームの立上げ
- (2) JICA民間連携事業等を活用した課題解決の推進

柱2 制度整備・ガバナンス

- (1) AI戦略・ロードマップ策定、法制度整備協力
- (2) 広島AIプロセスを通じた協力

柱3 人材育成・能力構築

- (1) AI開発・運用に関する人材育成
- (2) 安全性に関する協力（サイバーセキュリティ等）